

原子力広報 薩摩川内

2026
6月
No.86



川内原子力発電所

もくじ

- ＋ 身の回りの放射線P1～2
- ＋ 環境放射線調査結果（令和7年10月～12月）P3～4
- ＋ 令和8年度環境放射線・温排水影響調査計画P5
- ＋ 放射線知識普及啓発人材確保補助金P6
- ＋ 川内原子力発電所運転状況等（令和8年3月31日時点）P6
- ＋ 夏休み親子見学会参加者募集P7

お知らせ 夏休み親子見学会募集について

夏休み期間中の川内原子力発電所等の見学会に参加される親子を募集します。

◎詳細は7ページをご覧ください。



身の回りの放射線

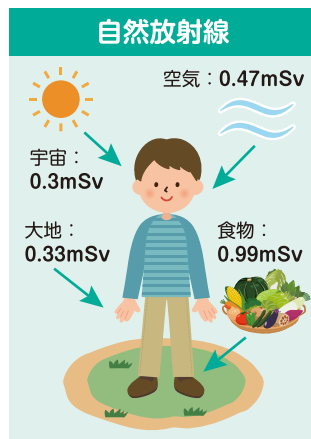
原子力発電と聞くと気になる放射線は実は私たちの普段の生活の中にあるものです。今回は、放射線に関する基礎知識と、原子力発電所周辺で行われている環境放射線調査について解説します。

放射線・放射能・放射性物質の違い

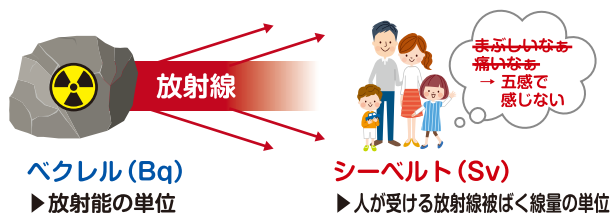
まず、放射線・放射能・放射性物質について整理してみましょう。

放射線は、目には見えない強力な電磁波のことです。そして、放射能は、これらの放射線を出す能力のことです。放射性物質は、放射線を出す能力を持つ物質のことを指します。

私たちのまわりの放射線には大気や大地に由来する自然放射線と、病院でのCT検査やX線検査などに利用される人工放射線が存在します。



放射性物質 = 放射線を出す能力(放射能)を持つ



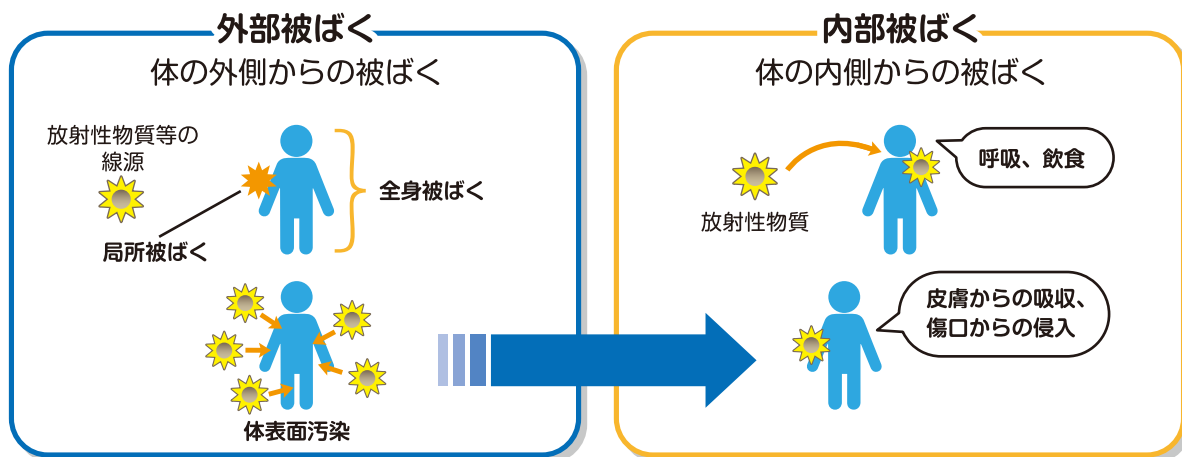
Sv (シーベルト)	放射線が人体に与える影響を表す単位。
Bq (ベクレル)	放射能の強度を表す単位。 ※放射能：放射線を出す能力。
Gy (グレイ)	物質における放射線のエネルギー吸収量を表す単位。

被ばくの種類

放射性物質から放射線を受けることを放射線被ばくといいます。一方、放射能汚染とは、放射性物質によって人や物、場所が汚染されることです。つまり、放射能汚染は通常存在しない場所に放射性物質が存在することを示すものです。

体の外にある放射性物質から、放射線を受けることを外部被ばくと呼びます。空気中に飛散した放射性物質を吸い込んだり、汚染された飲食物を食べたりして、体の中から放射線を受けることを内部被ばくと呼びます。

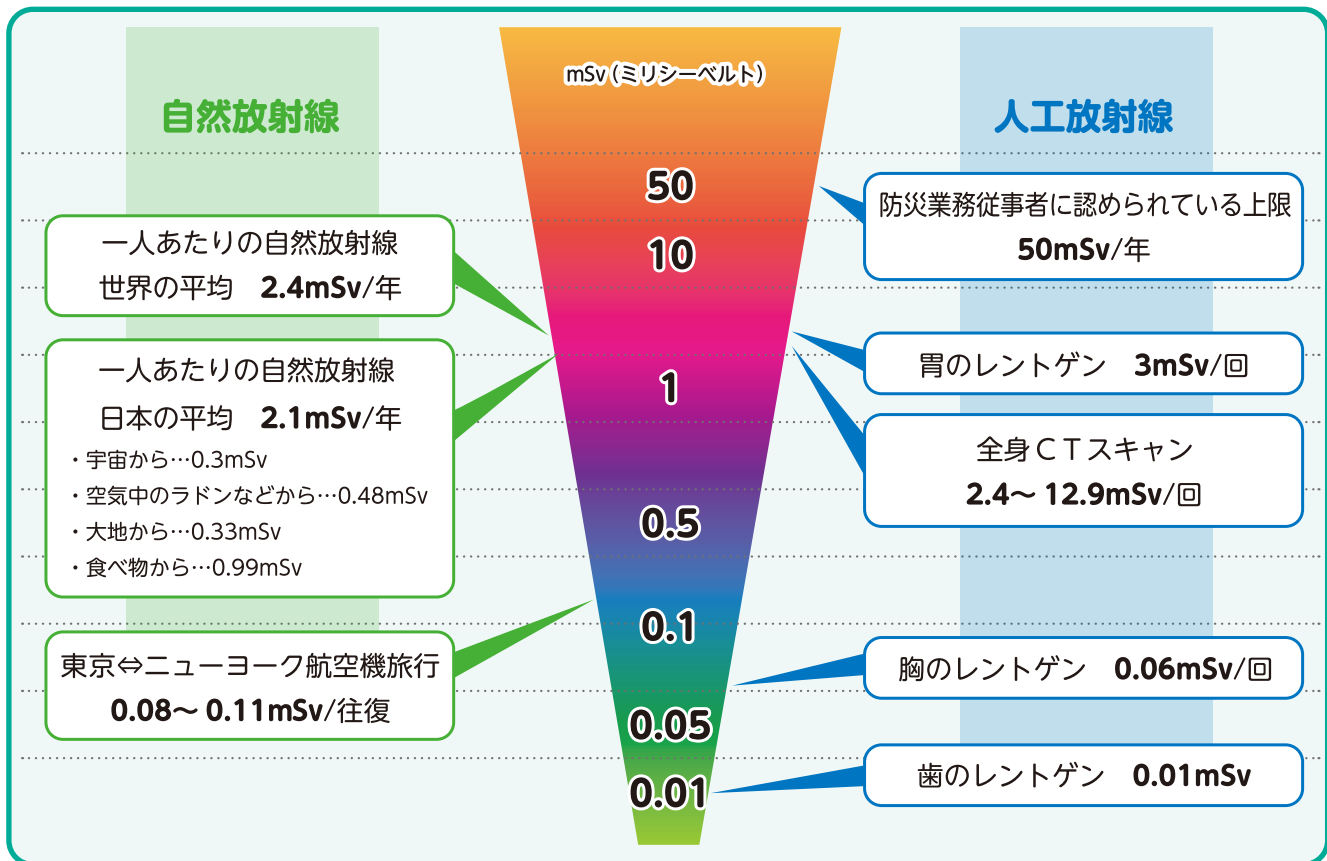
また、放射性物質が体の表面に付いた状態を体表面汚染と呼びます。体表面に付着した放射性物質が鼻・口・傷口から侵入すれば体内汚染となり内部被ばくの原因にもなります。



出典：「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料」環境省をもとに薩摩川内市作成

身の回りの放射線被ばく

下の図は、自然と人工のそれぞれの放射線による被ばく線量を比較したものです。図の上側になるほど、被ばくする量が多いことを示します。



出典：「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料」環境省をもとに薩摩川内市作成

川内原子力発電所周辺環境放射線調査

川内原子力発電所周辺地域の住民の安全確保及び環境の保全を図るため、次に掲げる目的の下、鹿児島県及び九州電力株式会社が分担して、川内原子力発電所周辺環境における空間放射線量の測定及び環境試料（食べ物や自然環境の一部を取り出して、調査用にしたもの）の放射能分析等を実施し、その周辺地域の住民及び環境への影響を評価しています。

1. 周辺住民等の被ばく線量の推定及び評価
2. 環境における放射性物質の蓄積状況の把握
3. 原子力発電所からの予期しない放射性物質又は放射線の放出の早期検出及び周辺環境への影響評価
4. 緊急事態が発生した場合への平常時からの備え

調査結果の評価は「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）」（原子力規制庁）等に基づくとともに、学識経験者で構成されている「鹿児島県環境放射線モニタリング技術委員会」の指導・助言を得て、「平常の変動幅」との比較によって行われます。

調査結果は3か月ごとに公表されています。本誌でも毎号掲載しています。
次のページをご覧ください。



（九州電力による調査の様子）

出典：「令和7年度川内原子力発電所周辺環境放射線調査計画」鹿児島県をもとに薩摩川内市作成

令和7年
10月～12月

川内原子力発電所周辺 環境放射線調査結果

調査結果概要

空間放射線量及び環境試料の放射能とも、これまでの調査結果と比較して同程度のレベルであり、異常は認められていません。

※評価基準：空間放射線量および環境試料の放射能については「過去の測定値範囲」との比較で行います。

1. 空間線量率

●空間放射線量率

川内原子力発電所を中心に設置してあるモニタリングポストおよびモニタリングステーション42局で、空気中および大気中のガンマ線の線量率（1時間当たりの放射線量）を連続測定しています。測定は、低線量率を測定するシンチレーション検出器と、高線量まで測定できる電離箱検出器によって行っています。

測定値のほとんどは、自然界の放射線によるものです。

【調査結果】◆10月～12月（月平均値）

・シンチレーション検出器（13地点）

県第一測定局および九電測定局計13地点の結果は、これまでの範囲内でした。



過去の測定値範囲 今回の測定値範囲

* 1 mGy（ミリグレイ）＝1,000 μGy（マイクログレイ）
＝1,000,000 nGy（ナノグレイ）

・電離箱検出器（36地点）

県第一および第二測定局計22地点の結果は、これまでと同程度のレベルでした。また、平成25年度から測定を開始した県の第三測定局14地点の結果についても、これまでと同程度のレベルでした。



過去の測定値範囲 今回の測定値範囲



●空間放射線量測定地点（42局）

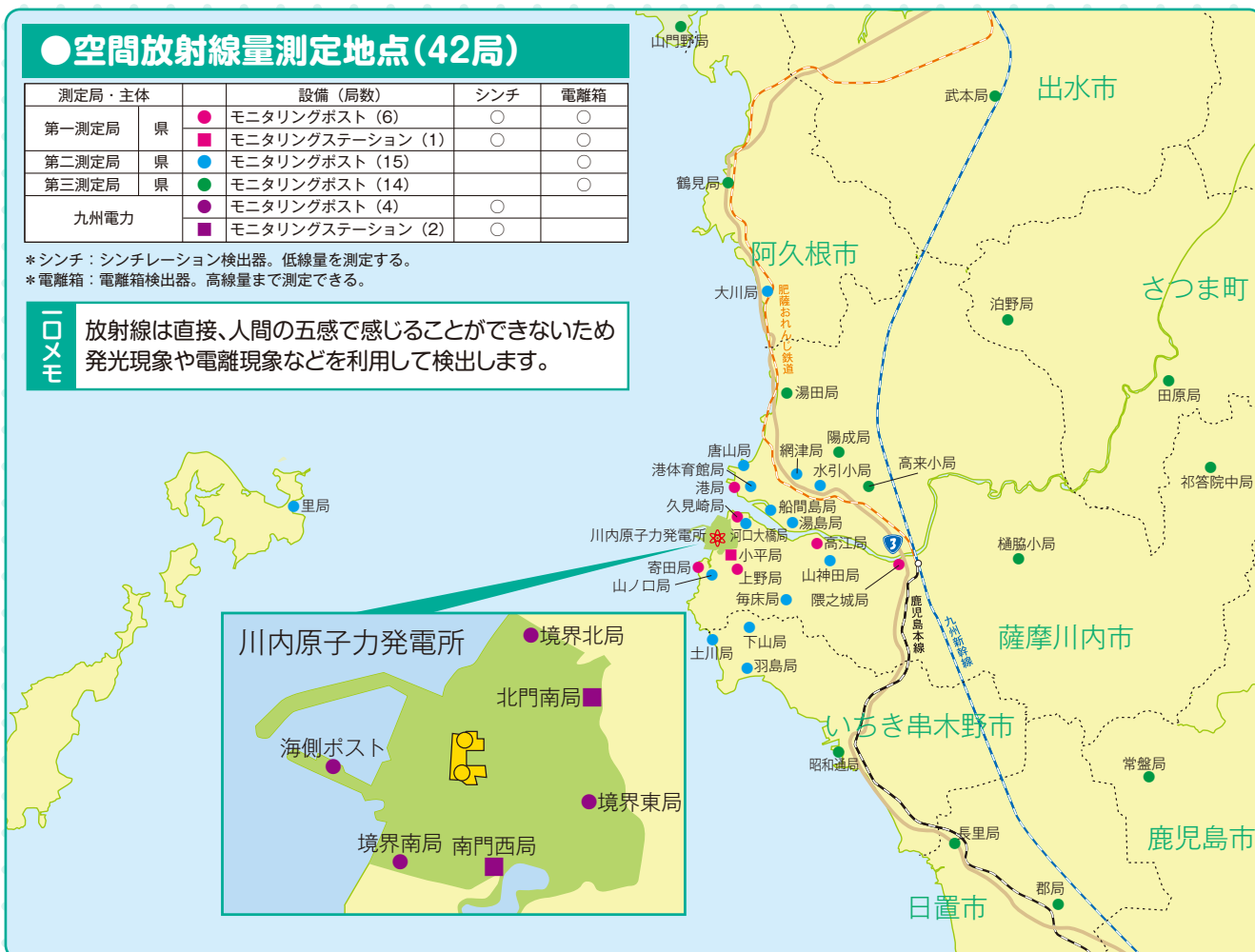
測定局・主体	設備（局数）	シンチ	電離箱
第一測定局 県	● モニタリングポスト（6） ■ モニタリングステーション（1）	○	○
第二測定局 県	● モニタリングポスト（15）		○
第三測定局 県	● モニタリングポスト（14）		○
九州電力	● モニタリングポスト（4） ■ モニタリングステーション（2）	○	○

* シンチ：シンチレーション検出器。低線量を測定する。

* 電離箱：電離箱検出器。高線量まで測定できる。

ロ
メ
モ

放射線は直接、人間の五感で感じるできないため
発光現象や電離現象などを利用して検出します。



2. 空間積算線量

●空間積算線量（91日換算）

空气中及び大地からのガンマ線が、3カ月間にどのくらいあるかを測定しています。

*測定施設：モニタリングポイント

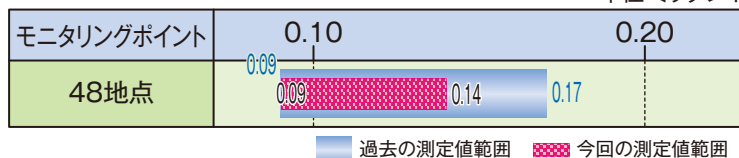
単位:ミリグレイ

【調査結果】◆10月～12月

今回の範囲：「0.09～0.14」ミリグレイ

過去の範囲：「0.09～0.17」ミリグレイ

【補足説明】 48地点で調査しています。



*上図は48地点全ての積算線量範囲です。

3. 電子式線量計による線量率連続測定

●線量率

電子線量計測定64地点において、緊急時モニタリングへの移行に迅速に対応するため、平常時から電子式線量計による線量率連続測定を行うこととして、測定しています。

【調査結果】◆10月～12月

線量率範囲：0.2マイクロシーベルト/時 未満*

*電子式線量計は、原子力災害時の防護措置の判断に活用することを目的とした測定器であり、0.2μSv/h（マイクロシーベルト/時）未満の測定値については、精度保証外のためこのように表記しています。

4. 環境試料の放射能

●環境試料の放射能

海水、牛乳などに含まれているベータ線やガンマ線を放出する放射性物質の濃度を測定しています。

【調査結果】◆10月～12月

セシウム-137、ストロンチウム-90が一部の試料で検出されましたが、これまでの調査結果と同程度のレベルであり、異常は認められませんでした。

【補足説明】

環境試料の放射能分析では、人工の放射性物質であり環境における蓄積や被ばくの観点から重要と考えられるセシウム-137、コバルト-60、ストロンチウム-90、ヨウ素-131について測定しています。

調査結果（一部）

試料名	核種名	単位	今回の測定値	ND	0.1	0.2	1	5	15	100
畜産物 (牛乳)	Cs-137	Bq/ℓ	ND	ND	0.31					
	Co-60		ND	ND						
	Sr-90		—	ND	0.082					
	I-131		ND	ND			3.4			
陸水	Cs-137	mBq/ℓ	ND	ND				16		
	Co-60		ND	ND						
	Sr-90		0.72	ND			11			
	I-131		ND	ND						
陸土	Cs-137	Bq/kg乾土	ND~4.0	ND				110		
	Co-60		ND	ND						
	Sr-90		—	ND						13

過去の測定値範囲 今回の測定値範囲

*今回の測定値の欄の「—」は調査計画により、今回は未実施

*1Bq(ベクレル)=1000mBq *ND:検出限界値以下

【用語説明】

- セシウム-137 (Cs)・・・ウランなどの核分裂で生成する半減期約30年、ベータ線とガンマ線を出す放射性物質です。地上にあるほとんどは過去の原子爆弾実験で発生したものです。
- コバルト-60 (Co)・・・原子炉の中で安定元素であるコバルト-59に放射線の一種である中性子が吸収されて生成する半減期約5年、ベータ線とガンマ線を出す放射性物質です。
- ストロンチウム-90 (Sr)・・・ウランなどの核分裂で生成する半減期約29年、ベータ線を出す放射性物質です。地上にあるほとんどは過去の原子爆弾実験で発生したものです。
- ヨウ素-131 (I)・・・ウランなどの核分裂で生成する半減期約8日、ベータ線とガンマ線を出す放射性物質です。
- グレイ (Gy)・・・物質における放射線のエネルギー吸収量を表す単位です。
- ベクレル (Bq)・・・放射能の強度または放射性物質の量を表す単位です。
- シーベルト (Sv)・・・放射線が人体に与える影響を表す単位です。

空間放射線量の測定データは、リアルタイムでパソコンや携帯電話から閲覧可能となっています。

環境放射線監視情報ホームページ <http://www.env.pref.kagoshima.jp/houshasen/>

環境放射線監視情報携帯電話用 http://www.env.pref.kagoshima.jp/houshasen/i/data_top.cgi



携帯電話用
二次元
バーコード

環境放射線調査 温排水影響調査

令和8年度計画

鹿児島県及び九州電力株式会社は、原子力発電所周辺の環境放射線調査と温排水影響調査を実施しています。

環境放射線 調査計画						測定地点数			測定回数 (年当たり)	備考	
						区 分	県	九電			合計
						線量率	36	6	42	連続測定	モニタリングポストなどで測定
							—	25	25	12	サーベイポイントで毎月測定
計数率	—	1	1	連続測定	放水口ポストで測定						
積算線量	23	25	48	4	モニタリングポイントなどで測定						

空間放射線量▶

▼環境試料の放射能分析

区 分			県		九州電力	
			種類	採取頻度 (回/年)	種類	採取頻度 (回/年)
海洋 試料	海産生物	魚類	しらす(ちりめん) きびなご へたい、かわはぎ	4	しらす(ちりめん) まだい、ひらめ	5
		軟体類 棘皮類	こういか、 けんさきいか、 むらさきいんこ	4	こういか、 なまこ	4
		藻類	わかめ すじあおのり	2	まふのり	1
	海水	放水口側 取水口側	4	放水口側 取水口側	8	
	海底土	放水口側 取水口側	4	放水口側 取水口側	4	
陸上 試料	植 物	穀類	米	2	米	2
		葉菜類	白菜	1	ほうれんそう	3
		根菜類	らっきょう 大根	2	—	—
		豆類	そらまめ	1	—	—
		いも類	甘しょ ばれいしょ	2	甘しょ	1
		工 芸 作物類	茶	1	茶	1
		果 樹	ぼんかん、 みかん	2	—	—
		その他	牧草、松葉	3	松葉	2
	畜産物	牛乳	4	牛乳	2	
	陸 水	陸水	8	陸水	12	
	陸 土	陸土	4	陸土	8	
	浮遊じん	浮遊じん	40	浮遊じん	8	
	落下物	落下物	12	落下物	12	

※計数率：発電所放水口の海水中の放射線量

温 排 水 影 響 調 査 計 画						
調査項目	調査内容	計 画				
		調査箇所等	年 間 調 査 回 数	春	夏	秋 冬
1 水温・塩分	(1)水平分布	13定線	2回		○	○
	(2)鉛直分布(水温のみ)	10定点	2回		○	○
2 流 況	(1)25時間調査	4定点、1層	2回		○	○
	(2)15日間調査	1定点、2層	2回		○	○
3 海生生物	(1)海藻類 定線調査 定点調査	2定線 2定点	1回	○		
	(2)潮間帯生物 (動物) 定線調査	2定線	1回	○		
4 主要魚類 及び 漁業実態	(1)イワシ類(シラス) バッチ網	バッチ網船 1統	周年	○	○	○
	(2)マダイ・チダイ ごち網	ごち網船 2隻	4～ 12月	○	○	○

※温排水影響調査：川内原子力発電所から排出される温排水が周辺海域に与える影響を確認する調査。

※温排水：冷却水として使用され、取水時より温度が上昇して排出される水のこと。



出典：「令和8年度川内原子力発電所周辺環境放射線調査計画」鹿児島県を
もとに薩摩川内市作成

放射線知識普及啓発人材確保補助金

市では、放射線に関する正しい知識の普及と理解促進を目的に、専門的な知識を持つ人材の育成を支援しています。本補助金は、大学において放射線や被ばく医療に関する分野を学ぶ方を対象に、入学科相当額を支援するものです。修了後は、市の研修会や講演会などで講師として参加し、放射線の健康への影響などについて分かりやすく伝えていただきます。

【補助対象者条件】

- ①平成31年4月1日以降に、大学に入学した者
- ②大学の入学時点で市内に引き続き3年以上就労しており、かつ、入学後も3年以上就労される見込みである者
- ③大学の入学時点で市内に引き続き3年以上住所を有しており、かつ、入学後も3年以上住所を有する見込みである者
- ④大学卒業後において、市が行う研修会や講演会等において、講師として積極的に参加できる者
- ⑤その者又はその同一世帯の者が市税等の滞納者でないこと。
- ⑥その者又はその同一世帯の者が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第6号に規定する暴力団員でないこと。

【補助額】 入学科相当額

【申込・問合せ先】 原子力安全室 電話：0996-23-5111（内線4632）

川内原子力発電所運転状況等

●発電所の運転状況（1・2号機）

令和7年			令和8年		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
1号機	出力89万キロワット 営業運転開始／昭和59年7月				
	定期検査（令和7年10/16～）			通常運転（令和8年1/16～）	
2号機	出力89万キロワット 営業運転開始／昭和60年11月				
	通常運転（令和6年12/25～）			定期検査（令和8年1/24～）	

●発電電力量（1・2号機合計） 令和8年3月分

発電電力量の合計

7.2億 kWh

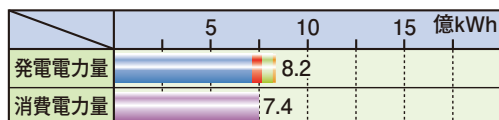
設備利用率

54.3%

*設備利用率：発電電力量÷（認可出力×暦日時間）×100

*定格熱出力一定運転導入（平成14年）により、設備利用率が100%を超えることがあります。この「定格熱出力一定運転」とは、原子炉から発生する熱量（原子炉熱出力）を国から認められた最大値付近で一定に保って運転する方法で、海水温度に応じて電気出力は変化します。

●県内の発電電力量と消費電力量（令和8年3月分）



（発電電力量内訳）

（単位：億kWh）

原子力 7.2 地熱・風力 0.4
火力 0.4 水力 0.1

（※発電電力量は九州電力グループの実績。四捨五入の関係上数値が合わない場合があります。）

川内原子力発電所の運転状況は、以下に示すとおりです。
*九州電力（株）からの提供資料を基に作成しています。

●低レベル放射性廃棄物（気体）1・2号機合計

令和7年4月1日～令和8年3月31日

放出量

5.4×10^9 ベクレル
(54億ベクレル)

年間放出管理目標値（参考）

1.7×10^{15} ベクレル
(1700兆ベクレル)

*目標値内であり、適切に管理されています。

●低レベル放射性廃棄物（固体）1・2号機合計

令和8年3月31日現在

貯蔵量

28,755本

貯蔵率

69.3%

*1本当たり200Lドラム缶相当

*貯蔵容量 約41,500本

●低レベル放射性廃棄物（液体）1・2号機合計（トリチウム）

令和7年4月1日～令和8年3月31日

放出量（トリチウム）

5.3×10^{13} ベクレル
(53兆ベクレル)

年間放出管理基準値（参考）

1.1×10^{14} ベクレル
(110兆ベクレル)

*基準値内であり、適切に管理されています。

●使用済燃料の貯蔵状況（令和8年3月31日現在）

	500 1,000 1,500 体			
	1号機			
	2号機			
	貯蔵容量 □	貯蔵量 ■		貯蔵率
		使用済燃料	再使用燃料	
1号機	1,868体	1,426体	22体	1,448体 77.5%
2号機	1,356体	1,111体	27体	1,138体 83.9%

夏休み親子見学会参加者募集

市では、原子力発電所などの施設を見学し、エネルギーや地域の仕組みについて学ぶことを目的に、夏休み親子見学会を開催します。ぜひご参加ください。

開催日程

- ・第1回：8月7日（金）
- ・第2回：8月24日（月）

見学予定先

- ・8月7日：川内原子力発電所＋鶴田ダム
- ・8月24日：川内原子力発電所＋ENEOS喜入基地

※見学先は調整により変更となる場合があります。

対象者：薩摩川内市在住の小・中学生とその保護者

- ・定員30名（保護者を含む）
- ・申込多数の場合は抽選により参加者を決定します。
- ・参加申込者数が10名に満たない場合は、事業を中止する場合があります。

参加料：無料（昼食にお弁当をご用意します。）

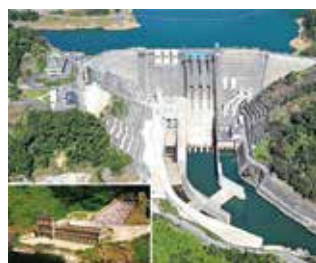
申込方法：電話もしくはQRコードからWEBでお申込みください。

【電話】0996-23-5111（内線4632）

申込締切：令和8年7月23日（木）



（川内原子力発電所）



（鶴田ダム）



（ENEOS喜入基地）



【WEB申込QR】



8月7日（金）スケジュール	
時刻	内容・場所
8：50	集合：センノオト前
9：00	出発：市貸切バスで移動
9：30	到着：川内原子力発電所展示館
	発電所構内・展示館内見学
11：30	弁当：展示館内
12：30	出発：市貸切バスで移動
13：30	到着：鶴田ダム
	施設見学
14：30	出発：市貸切バスで移動
15：30	到着：センノオト前

8月24日（月）スケジュール	
時刻	内容・場所
8：50	集合：センノオト前
9：00	出発：市貸切バスで移動
9：30	到着：川内原子力発電所展示館
	発電所構内・展示館内見学
11：30	弁当：展示館内
12：30	出発：市貸切バスで移動
14：00	到着：ENEOS喜入基地
	施設見学
15：00	出発：市貸切バスで移動
16：30	到着：センノオト前



【編集・発行】

薩摩川内市 市民安全部 原子力安全室

〒895-8650 薩摩川内市神田町3番22号

電話 0996-23-5111 FAX 0996-25-1704



中越パルプ工業株式会社川内工場で生産されている環境に優しい国産竹を10%使った紙を使用しています。